

学校支援を積極的に進める

地域とのふれあいを大切にするPTA活動を目指して

犬山立栗栖小学校PTA

1 はじめに

本校は犬山市の北部に位置し、校舎のすぐ西側には木曽川が流れ、山々に囲まれた豊かな自然環境にある。児童数13名の小規模校であり、複式学級の教育課程、一輪車、篠笛など特色ある教育を進めている。地域とのつながりも深く、公民館のサロンではシニアクラブの皆さんとふれあったり、運動会では多くの地域の皆さんとともに競技を楽しんだりしている。



【山々に囲まれた栗栖小学校校舎】

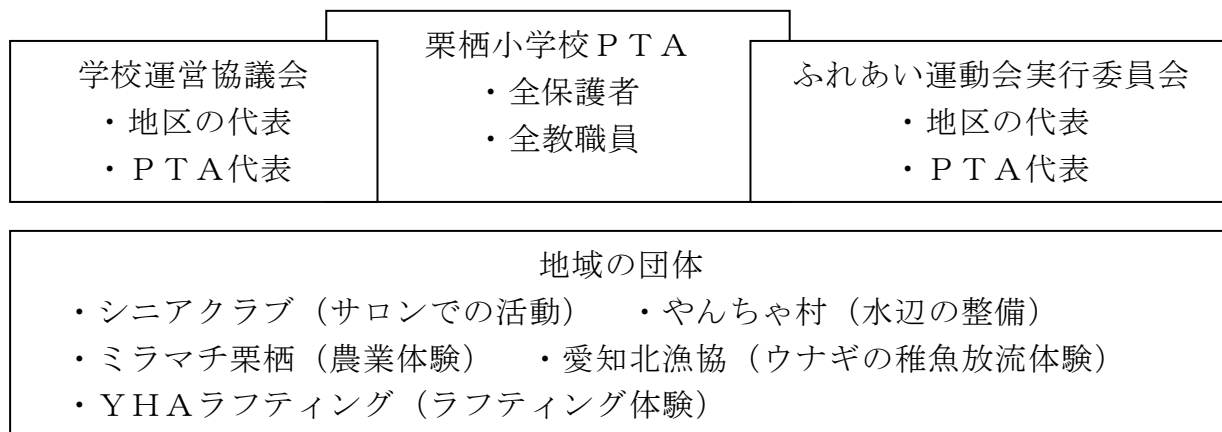
2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校PTAは、児童の健やかな成長を目標として、学校教育の充実を目指し、地域、家庭がつながって学校を支援してきた。しかし、児童数の減少、世帯の高齢化、生活様式の多様化などにより無理なく負担のないようにPTA活動の見直しを行ってきた。地域とのふれあいを大切にし、持続可能なPTA活動となるように考え、実践に取り組んだ。

(2) PTAの組織と他組織との関わり

本校PTAと他の組織とその関わりは下図の通りである。学校運営協議会、ふれあい運動会実行委員会、地域のシニアクラブ、ミラマチ栗栖などと連携をとり、地域とともに子どもたちを育てていく体制を整えた。



3 実践活動の概要

(1) 地域とともにやっている活動

① ふれあい運動会

地域やPTAの代表の方とともに「ふれあい運動会実行委員会」を組織し、地域と学校で楽しめる運動会を毎年行っている。本年度も玉入れや綱引き、桃太郎音頭など幼児からシニアまで楽しく参加できる競技を用意した。また、特色のある一輪車指導での「モノサイクルパレード」を披露し、【モノサイクルパレードの様子】保護者や地域の方に楽しんでもらえた。



【モノサイクルパレードの様子】

② サロンでの取組

ア クロリティを通しての交流

シニアクラブの皆さんと月に2回ほどクロリティを通して交流を行っている。学校に隣接している公民館へ昼放課に遊びに行き、楽しくクロリティをして過ごすことにより、シニアの皆さんと知り合うよい機会となった。



【クロリティの様子】

イ 肩もみ活動

敬老の日が近い9月中旬には、児童がサロンへ向かい、肩もみを行っている。いつもサロンでお世話になっているお礼に肩もみをすると、シニアの皆さんにも喜んでいただけた。世代の違う皆さんから学ぶことは多いので、児童にとってもよい機会となった。



【輪になつての肩もみ活動】

ウ 桃太郎音頭

栗栖区には桃太郎神社があり、桃太郎音頭が昔から踊られている。一時期、ふれあい運動会で踊るのをやめていたが、昨年度からふれあい運動会のプログラムでも復活し、PTAはもちろんのこと地域の方も一緒に踊っている。地域の方を講師にサロンで桃太郎音頭を踊る練習をし、指先をしっかりと伸ばすことなどポイントを伝授していただいた。本番は自



【桃太郎音頭の練習】

信をもって踊る児童の姿が見られた。

(2) 豊かな自然を感じる活動

① ラフティング体験

毎年、夏休みに入ると高学年はラフティング体験を行う。地域にあるYHAラフティングやPTA会員の協力を得て、木曽川の上流から川を下る体験をする。普段、目にしている木曽川だが、実際にボートに乗って川を下ると、自然の楽しさ、危険であることも学ぶことができる。自分たちが住んでいる地区を川から眺めてみると、新しく発見できることもある。子どもたちにとって大変貴重な体験となった。



【木曽川でのラフティング】

② 「やんちゃ村」での花植え体験

学校のすぐ近くの水辺「やんちゃ村」では、きれいな水が流れるように地域の方やPTA会員が草刈りをしたり、花を植えたりして美しい環境を守っている。学校でも生活科の授業の中や総合的な学習の時間に環境について学習をしている。地域の方に竹チップを作っていただき、雑草が生えにくく、環境によい花壇をやんちゃ村に作る活動を行った。児童は冬に植えたチューリップやパンジーの花が春に咲く様子を見て、嬉しそうな表情をしていた。季節の移ろいを花の開花の様子などで感じることができるのは、こういった活動をさせていただいているお陰である。



【苗に竹チップをかける】

③ ウナギの稚魚放流

愛知北漁協の皆さんとPTA会員と一緒にウナギの稚魚放流を行っている。近年、ウナギが減っていることは児童もニュースを見て知っている。実際にウナギの稚魚を見て、「小さくてかわいいね」「大きくなって帰ってきてね」など声をかけ、木曽川に放流する体験を行った。環境を悪化させてはいけないことなど肌で感じることもできた。

また、栗栖区の岩の特徴や地層のことなど高学年向けの理科や社会科の学習につながることも愛知北漁協の方からお話を伺うこともでき、体験を通して学習が身につくよい機会となった。



【ゆっくりと稚魚を運ぶ児童】

(3) 保護者とともにしている活動

① シバザクラで学校環境整備

栗栖区の桃太郎公園にはシバザクラがたくさん植えられ、観光の名所ともなりつつある。学校でもシバザクラ植えのボランティアを募集したところ、たくさんのPTA会員に集まっていた。親子で校庭にシバザクラを植えた。硬い土は大人がほぐし、ポットから丁寧に苗を出し、穴を掘って子どもが植える姿が見られた。「春になるのが楽しみだね」と話す親子もいた。



【シバザクラを植える様子】

② 家庭科の授業の特別講師

木曽川周辺は美しい水が流れることから、織物の産地であり、昔から尾州織物産業で有名である。高学年の家庭科の授業では、ミシンや布を扱う単元があり、普段は大学で教鞭を執っているPTA会員を特別講師として招聘し、織物の歴史、文化、布の特徴などについて教えていただいた。一緒にコースターを作る体験をさせていただき、布の仕組みを直に理解することができた。



【尾州の糸でコースターを織る】

4 おわりに

今回の研究を通して、自然豊かな栗栖小学校は、その自然とともにあり、あたたかい地域の人々や子どもたちに寄り添って活動して下さるPTA会員の皆さんに支えられていることに改めて気付かされた。学校、地域がそれぞれ縦糸や横糸だとすると、お互いに協力して交互に丁寧に織っていけば、ぎゅっと目の詰まった素敵な一枚の布になるのではないかと感じる。学校と地域の連携は、地域の声をよく聴いて、学校が教育活動やPTA活動にうまく絡めながら取組を進めることで健やかな子どもたちの育成につながるのではないかと考える。

本校は小規模校のため、大集団で活動するよさは経験できないかもしれない。しかし、小規模校ならではの特色を生かした活動をこれからも地域とともに進めていき、心豊かな児童を育ていけるようにしたい。そのためには、学校は地域の文化や歴史を大切にして、PTA活動と教育活動に生かしていくことが必要である。